

研修会参加報告

JFA Football Future Program 2016 参加報告

はじめに



「研修会参加報告」

サッカー3級審判員（ユース）

藤 真悠子
（上段右端）

私は今回4泊5日で静岡県で開催されたJFA football future program トレセン研修会U12に参加させていただきました。

JFAの方からプログラムのしおりが送られてきたときとてもワクワクしている気持ちの反面、心臓の音が聞こえるほど緊張していました。全国のユース審判員と交流することができるため、試合をみてたくさんのことを学んで吸収しようと心構えて行きました。

この研修会のテーマは「ちょっと立ち止まって」でした。前に前に進んでいくだけではなく、ちょっと立ち止まって後ろを振り返ることも大切だということ学びました。

1日目



私は1日目から審判の割り当てを頂くことができました。この研修会に参加する前に8人制の試合をやらせていただけたので自信はありました。1-0という接戦した試合でレフェリングをしていて楽しかったです。少しでも争点に近づこうと思い、またファウル・ノーファウルをしっかりと見分けられるようなポジション取りをすることを意識して試合に入りました。ファウルの基準もブレず、オフサイドもしっかり判断することができました。インストラクターの方からもしっかりと走っていて、ステップも細かく刻めていてよかったなどの言葉をいただけてとても嬉しかったです。ただ、ボールwatcherになりすぎるという課題点も見つかり、次につなげられる試合になれたかなと思います。

その日の夜は講義がありました。まずは、柳本氏による「サッカーに関わる意義」という講義でした。

審判員としてあるべき姿について考えなおすことができました。この講義のなかで一番心に残っている言葉は「審判員は競技規則の適用だけでは完璧な審判員にはなれない」「審判員は一人の人間としての力が必要だ」という言葉です。競技規則を正しく理解して適応するだけではなく、人間性や社会性、知識も必要だということです。「審判員は競技場に到着した時から誰かにみられている」という意識を持ってもおかしくないと思います。そこで挨拶や立ち居振る舞いといった当たり前なことができなければ人間として信頼してもらえないからです。

この講義を受け、審判はゲームを裁くだけではなく人間としても成長できるということを改めて感じました。

次に小川委員長からの講義でした。AFCの映像をみさせていただきました。

人が話したことをいかに自分のものにするかということ学びました。自分で聞いて味わいそして自分の物にする。これが大切だと何回もおっしゃられていました。

私はこの研修会をいかに積極的に行動して、そこで得た知識をどれだけ自分の物にするかが大切であり、この研修会でいかに成長できるか、がかかっているのだというメッセージではなかったのではないかと思います。

次に中込氏による物事を多面的に見る力についての講義でした。「見る気がなければ何も見えない。聞く気がなければ聞こえない」という言葉が深く印象に残りました。審判員は何事にも興味を持ち、深く関心を持つことが大切だということが分かりました。

2日目



2日目はまずプラクティカルトレーニングを行いました。ポジショニングのトレーニングと主審と副審の協力のトレーニングをしました。ポジショニングのトレーニングでは手を使ったファウルをどこにポジショニングすればクリアに見えるかをしました。ライン付近主審の見えにくいところでのファウルは見逃しがちなので気をつけたいです。主審と副審の協力のところでは実際に旗を使ってすばやく伝えること、タッチラインギリギリのドリブルやパスのボールがラインの中か外かの判断のトレーニングもしました。

フィジカルトレーニングではいいコンディションの作り方について山岸氏から講義をうけ、試合前のストレッチのことやドリンクの種類など細かく教えていただきました。

午後からは試合会場に移り試合を担当しました。今回も主審の割り当てをいただけたのですが疲れもあり、あまり良いレフェリングができませんでした。無駄走りが多く周りを見るのが少なく、ベンチ前で口まで笛を持っていくのに笛を吹けないことが多かったです。角度が悪く自分の見えているものに自信がもてなかったからです。

インストラクターの方からファウルの程度の見極めの基準について教えていただきました。競技者の意図、コンタクトの激しさ、チャレンジのスピード、チャレンジのタイミング、チャレンジの危険性の5つです。今度から試合に臨む時に頭の片隅にいれて臨みたいと思います。

夜は佐藤氏の講義がありました。マネジメントについての講義でした。班で話し合いながらの講義でした。

織田信長と豊臣秀吉、徳川家康の三人の政治の進め方は審判に例えると何になりそして自分は何型なのかについて話し合いました。私たちの班では信長型は独裁的で選手のことを考えない審判員で秀吉型は実力者で努力を積み上げていく審判員で家康型は慎重に物事を考える審判員ということになりました。審判員はコミュニケーションスキルが必要なプレーヤーズマネジメントが中心になります。マネジメントは手段であり目的ではない。何事においても選手の立場になって考えることが大切だということを学びました。

3日目



3日目は試合がなかったので競技規則のテストと講義とトレーニングを行いました。

競技規則のテストを受ける前に深野氏の講義を受けました。JFA がインターネット上に UP している動画を見ながら理解を深めました。競技規則の大幅な改正は 130 年に一度のことだそうで大変な年に当たってしまったなと思いました。

その後テストを受け各グループごとのトレーニングに移りました。私たちは笛の使い方についてのトレーニングでした。私は KICKOFF の時の笛が短くて音が小さいと指摘されていたのでとても良い練習になりました。FREEKICK の再開時の笛や、CARD ができるときの笛の強弱など普段練習したくてもできないことができたのでとてもよい練習ができました。この練習をしたことで笛の音が格段と大きくなったのでこれからも笛の強弱は意識して試合術の方が審判に求めることや思っていることなどを聞いたのでとても貴重な経験となりました。

技術の方は SPEADY で TOUGH で FEAR な選手の育成を目指しているそうなので審判もそのような選手の育成ができるようなレフェリングをするべきだなと思います。また GREENCARD も積極的に出そうとも思いました。些細なことでも GREENCARD を出してあげると選手もサッカーをしていてもっと楽しくなるのではないかと思います。技術の方から聞いた話は今回だけでなく自分のレフェリングにも取り入れていけるのではないかと思います。

次にリフレッシュの意味を込めて審判団でサッカーをしました。みんなで笑いながらそして勝負にはこだわってサッカーを楽しむことができました。心も体もリフレッシュできたと思います。

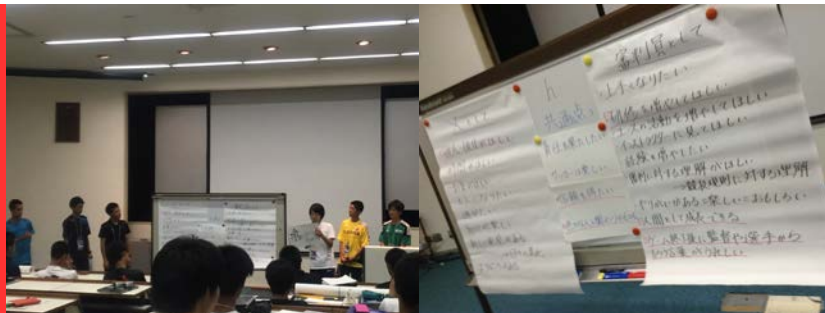
夜は鈴木氏の講義を受けました。予測の大切さを学びました。ひとつの可能性だけを考えるのではなく複数個可能性を予測することが大切であると学びました。展開の数を多く予測することが出来れば、戦術を理解しながら POSITIONING を修正することができるようになるそうです。

その後ワークショップの準備をしました。テーマは「サッカーから得られるもの」「サッカーに必要なもの」「サッカーから学んだもの」「自分たちにとってのサッカーとは」「青春の真っ只中で思うこと」「今熱中できるもの」「ふるさとと自分」「大人になるということ」の 8 つの中から選びました。私たちの班は「青春の真っ只中で思うこと」について発表することにしました。

スケジュールに取られている時間だけではなく、休憩時間や睡眠時間をけずって準備しました。私たちの班はまず審判員として思うことと日常生活で思うこと両方に関連する事の 3 つにわけて思うことをあげ、ひとり 1 つずつテーマをあげてそれを 30 秒ほど思っていることを発表する形をとりました。

その中の話し合いでは、ユース審判員や女子審判員に対する指導や割当にも府県によって、温度差があることも知り、兵庫県はユースに対する理解も女子に対する理解もしっかりあるんだな。と感じました。女子ユースでも活動が出来るような環境を作ってください兵庫県の審判委員会の方には感謝の気持ちでいっぱいになりました。

4 日目



4 日目はまずゲームをして昼からプラクティカルトレーニングとワークショップの準備そして夜に発表というスケジュールでした。

今回は割り当てがいただけたので、前回の反省を踏まえてそして笛の音を意識して取り組みました。3 ピリオドの途中までは自分でも納得のいくほどいいレフェリングができました。3 日目の技術の方が言われたことを意識しながら、自分の最大限のパフォーマンスができるように頑張りました。ボールばかり見るのではなくしっかり周りを見て自分の後ろをボールが通らないように意識しました。ファウルの基準も一定していて、ノーファウルとファウルの見極め。ファウルであってもアドバンテージを適用したり、選手がプレーできるものは流して。自分でも納得のいくいいレフェリングができていました。

しかし、第 3 ピリオドの途中私がファウルを吹くタイミングを失ってしまい明らかなファウルを吹けなかったことから、レフェリングが崩れてしまいました。GK との接触を串刺しで見てしまい接触がクリアに見えず、しっかり判定できず、結果として負傷者を出してしまうことになってしまいました。とても悔しかったです。インストラクターの方には「失敗しないと分からないことだってあるんだからいい経験をしたと思って次同じ失敗をしなければいい」と言われ気持ちを次に切り替えました。これは接触が起こると思って一生懸命角度をつけずに走ってしまったことが原因だと思います。今後このようなミスをしないようにしたいと思います。

しかし隣のコートに入っていた補助審をしていた子に笛の音聞こえたよと言われとても嬉しかったです。そこは今後も意識していこうと思います。

昼からのプラクティカルトレーニングでは PK とオフサイドについてやりました。今回競技規則の改訂に伴い PK のところが大幅に変更されていたので、ほかの人がやっている所も自分に置き換えて考えました。PK の時に声を出して飛び出しを注意しながらポジショニングの練習をしました。オフサイドではボールの出どころをしっかりと見ながらラインコントロールすることが大切だということが改めて感じました。

夜にはワークショップの発表がありました。私たちの班は 6 番目の発表でした。しっかり 4 分 45 秒に終わり 5 分以内に終わることができました。私は審判をすることで「人間として成長できる」を選び、発表しました。私はこのように発表しました。「私は審判をして人間として成長できたと思います。審判員は色々な人からどこで見られているかわからないので基本的な挨拶から、立ち居振る舞いなどピッチ外でも意識して行動するようになります。審判員として見られる前に人として当たり前のことを意識しないで行動できるようになります。また、自分の発言に責任を持って発言するようになりました。これからたくさんの審判の割り当てを受けることで人としても審判員としても成長していきたいと思います。」私たちの班は 13 票を獲得し見事 1 位になることができました。

5 日目



5 日目は試合だけで、講義はありませんでした。私は主審の割り当てを受けることができませんでしたが、補助審をしました。

交代もなく私の出番はほとんどありませんでしたが、主審と連携をしっかりとれたのでよかったと思います。

まとめ

今回この program に参加させていただいて最高の仲間に出会い、たくさんのことを吸収することができました。

たくさんの講義をうけ、レフェリングの技術の向上だけではなく、ピッチ外でもたくさんのことを学ぶことができました。最初は緊張してあまり喋れなかった班のメンバーも最後は笑い合っただけで喋れるほど仲良くなりました。

この研修会に参加させていただいて本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

この経験を今後のレフェリングにつなげていきたいです。

本当にありがとうございました。

